

# ICTで誤進入、追突防止

## 操作ユニットも開発

三井住建道路は、仙台銘板と共同で開発を進めてきた、ICTを活用した誤進入、追突防止システム「誤進入ストップパー（デジタル文字シート）」を開発し、本格運用を始める。主に高速道路の交通規制を伴う切削オーバーレイの工事現場で、ダンプトラック（工事用車両）と一般車の追突事故や、工事用車両に追従して誤進入する一般車の安全対策に役立てる。

両社はこれまで、ダンプトラックの運転手が、デジタル文字表示のオン・オフスイッチ操作をスマートフォン画面で実施する「ながら運転」

の対策を目的に「首都圏中央連絡自動車道所沢管理事務所管内舗装補修工事」（発注者＝NEXCO東日本）の現場で実装試験を実施したところ、新たなスイッチ操作ユニットを完成させた。スマートフォンアプリから事前に表示内容を登録すると、運転中のスマートフォン操作が不要になる。表示内容は音声で読み上げるためスマートフォンを見る必要がなく、脇見運転の危険性も減る。今後、同現場を皮切りに全国に展開していく。

連井肇社長は「従来の工事用車両のハザードランプと黄

ダンプトラック外側



運転席側



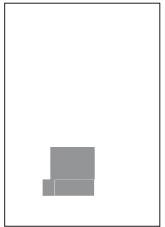
Bluetooth

ワイヤレス接続

運転席から遠隔操作

誤進入ストッパー（デジタル文字シート）の操作イメージ

色回転灯の点灯による注意喚起から、安全性が大幅に向上する。高速道路の利用者が安全にストレスなく工事現場を通過できることにも寄与する」と期待を示した。



# 接触事故対策を強化

フレキシブル  
電光掲示板板 高速道で本格運用

三井住建道路

三井住建道路は高速道路の舗装工事現場で、工事用車両と一般車両の追突・接触事故防止対策を強化する。工事用車両の車体外側で簡単に取り外しできるフレキシブル電光掲示板「デジタル文字シート」の本格運用を開始した。工事用車両の運転手が一般の後続車両に伝えたい「追突注意！」などのメッセージをスマートフォン上のアプリケーションでワンタッチで済むスイッチボタン操作だけで表示できるよつにする。表示内容は音声による読み上げ機能もある。

安全保安用品の販売やレンタルなどを手掛ける仙台

銘板（仙台市、鹿又浩行社長）との共同開発。東日本高速道路会社発注の「首都圏中央連絡自動車道所沢管理事務所管内舗装補修工事」の現場で実装試験を重ねてきた。

スマホに登録できるメッセージは10個。工事用車両



操作イメージ（報道発表資料から）

の運転手がスマホと有線接続したスイッチボタンで任意の2個を表示し、近距離無線通信技術（ブルートゥース）で接続したデジタル文字シートに反映する。従来の同様の電光掲示板は運転中にスマホから直接操作していたため、前方不注意などの安全運転義務違反が危惧されていた。

デジタル文字シートにはLEDでメッセージを表

示。柔軟性があるため、平面の少ないバックホウなどの重機にも設置可能だ。

三井住建道路の連井肇社長は「工事用車両のハザードランプと黄色回転灯を使った従来の注意喚起から大幅に安全性が向上する。高速道路の利用者が、安全にストレスなく工事現場を通過することにも大きく寄与する」とコメントし、全国展開を意気込んだ。

